

四万十川一桂浜



2014年9月24日

四万十川は、高知県の西部を流れる一級河川、全長196kmで四国最長の川で、本流にダムが建設されていないことで「日本最後の清流」と言われている。四万十川には支流も含めて47の沈下橋があり、高知県では生活文化遺産として保存する方針のようです。日本最後の清流で有名な四万十川ですが以前は渡川と称されていたが1994年に四万十川と改名されました。不入山から流れ出た川は透明な水をたたえて窪川盆地に入るが、ここで周辺の田圃を潤すが近くの町内の下水が流れ込み、清流と言えない状態になる。その後佐賀堰堤で水の半分が抜かれ発電に使われるが、このために四万十川の下流には下水を含んだ水は流れていない。四万十川は流れに湧水多く、支流からの流れも集めているので下流まで清流が保たれ、ゆるやかな流れで、アユ、テナガエビ漁ができ、周辺の漁民が生計を立てている。ダムがないので台風や大雨の時には増水し、橋が沈下するが欄干がなく橋が流木の圧力などで破壊されないようになっているが、車の通行には事故が多いようです。人が渡るにしても夜間は避けた方が良さそうです。四万十川は古くから漁が盛んで天然ウナギ、アユ、ゴリ、ツカニ、テナガエビ、アカメが生息し青海苔の産地としても知られている。

